

「上城小学校の西目イシシハカマ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

知名町立上城小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計17人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

4月～2月（上城小学校運動場・多目的室・音楽室・ホール）

(2) 発表の日時・場所

上城小学校大運動会（10月） 正名字第1回芸能発表会（10月）

生涯学習フェスティバル前夜祭（11月）知名町島唄・島ムニ大会（2月）

敬老会等各種イベント

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

西目イシシハカマ踊り（にしみいししはかまおどり）

(2) 由来

江戸時代の終わりごろ、上城の沖野松盛が代官付人として鹿児島に行ったとき、歌を習い、島にもち帰り、西目地区（上城・下城・新城の3集落）の人々とともに、踊りや三味線を加え創り上げたといわれる。当初は、高野家を中心に伝承されていたが、現在は西目地区で保存会を結成し、後継者育成を図っている。平成4年に知名町無形民俗文化財に指定され、平成12年から大運動会で児童・教職員・校区民で踊っている。

(3) 構成等

江戸時代に流行した地突歌や祝儀歌の影響を受けている。歌詞の内容は次のようになっている。姑が嫁に「石の袴を縫ってこい。」と無理難題をもちかける。すると嫁は、「石の袴を縫いますから、浜の真砂の糸をください。」と返す。最後は、「お互いの大事な振り袖を合わせて、見事な袴を作りましょう。」と、仲良くなるというものである。踊り手の人数は決まっておらず、三味線・太鼓の演奏に合わせて、笠・紋付き・袴・襷・脚絆・脇差しという姿で軽快に踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年、上城小学校・上城校区合同運動会では、全児童・職員・保護者・校区民が参加して、イシシハカマ踊りを披露するのが伝統となっている。また、島唄・島ムニ大会、地域の敬老会等での披露も恒例となっており、地域全体で保存伝承に取り組む体制づくりができています。運動会の前には児童・保護者・教職員が一緒になって練習をする。

今年度は町の島唄・島ムニ大会でも、三味線を中学年と高学年、歌と踊りを低学年が担当して、イシシハカマ踊りを発表しました。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に、中・高学年ともに「受けつごう！えらぶの文化」を設定し、三味線・島唄・郷土芸能等について学んでいる。本校の卒業生である地域住民に講師として来校していただき、三味線や島唄の指導を受けている。本年度は、三味線で「イシシハカマ」を練習し、歌や踊りとともに発表できるようにした。また、正しい踊りの伝承のために、夏休みの職員研修では、地域の方に踊っていただいた映像を見て練習を行った。特に本年度は、転入職員が多かったため、時間を長くにとって練習に励んだ。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【令和4年度島唄島ムニ大会】



【令和5年度上城小・上城校区運動会】



【正名字第1回芸能発表会】



【生涯学習フェスティバル前夜祭】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

島唄・島ムニ大会で、イシシハカマをカッコよく踊れたのでうれしかったです。あとから家族のみんなや先生方が「上手だったよ。」と言ってくれました。来年は三味線を教えてもらって上手に弾きたいです。

【教職員】

今年赴任してきて、三味線や踊りの指導に不安がありましたが、毎年の積み重ねにより、子供たちがよく覚えているので、一緒に学ぶつもりで取り組みました。地域の方々も教えてくださったので、安心して取り組むことができました。地域の方々にとっても愛されている踊りなので、今後も大事に受け継いでもらいたいです。

【保護者】

上城小の子供たちは、イシシハカマの踊りと歌・三味線の演奏を全て自分たちでやることができます。地域の方や先生方、保護者で教えています。イシシハカマ踊りには、道具や衣装も使います。これからは、袴の着付けも教えて、楽しく伝承していけたらいいと思います。